

## 8 内部チェック

### 8.1 概要

内部チェックを使用するとZabbix内部を監視できます。このアイテムを使用するには、アイテムタイプ**Zabbixインターナル**を選択します。

内部チェックは、**Zabbixサーバ**によって計算されます。

内部チェックは、今までどおり **Zabbix ポーラー**によって処理されます。

### 8.2 サポートされているチェック

		キー		
▲	説明	コメント		
<b>zabbix[boottime]</b>				
<input type="checkbox"/>	Zabbixサーバプロセスの起動時間(秒単位)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	エポックを起点とした経過秒数が返されます。
<b>zabbix[history]</b>				
<input type="checkbox"/>	テーブル[]HISTORY[]に保存されている値の数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	MySQL InnoDB[]Oracle[]またはPostgreSQLを使用している場合は、このキーを使用しないでください。
<b>zabbix[history_log]</b>				
<input type="checkbox"/>	テーブル[]HISTORY_LOG[]に保存されている値の数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	MySQL InnoDB[]Oracle[]またはPostgreSQLを使用している場合は、このキーを使用しないでください。このアイテムは、バージョン1.8.3以降でサポートされています。
<b>zabbix[history_str]</b>				
<input type="checkbox"/>	テーブル[]HISTORY_STR[]に保存されている値の数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	MySQL InnoDB[]Oracle[]またはPostgreSQLを使用している場合は、このキーを使用しないでください。
<b>zabbix[history_text]</b>				
<input type="checkbox"/>	テーブル[]HISTORY_TEXT[]に保存されている値の数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	MySQL InnoDB[]Oracle[]またはPostgreSQLを使用している場合は、このキーを使用しないでください。このアイテムは、バージョン1.8.3以降でサポートされています。
<b>zabbix[history_uint]</b>				
<input type="checkbox"/>	テーブル[]HISTORY_UINT[]に保存されている値の数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	MySQL InnoDB[]Oracle[]またはPostgreSQLを使用している場合は、このキーを使用しないでください。このアイテムは、バージョン1.8.3以降でサポートされています。
<b>zabbix[host,&lt;type&gt;,available]</b>				
<input type="checkbox"/>	ホスト上の特定のタイプのチェックの稼働状況。 このアイテムの値は、ホストのリストの稼働アイコンに対応しています。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	有効なタイプ: <b>agent[]snmp[]ipmi[]jmx</b> 戻り値: 0 (利用不可)、1 (利用可能)、2 (不明)  このアイテムは、バージョン2.0.0からサポートされました。
<b>zabbix[items]</b>				
<input type="checkbox"/>	Zabbixデータベースに保存されているアイテムの数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>zabbix[items_unsupported]</b>				
<input type="checkbox"/>	Zabbixデータベースに保存されている取得不可アイテムの数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

		キー	
▲	説明		コメント
<b>zabbix[<i>java</i>,,<i>&lt;param&gt;</i>]</b>			
□	Zabbix Javaゲートウェイと関連する情報を返します。	□	<p><i>&lt;param&gt;</i> が <b>ping</b> の場合、1 が返されます □trigger の <code>nodate()</code> 関数を使用してJavaゲートウェイの稼働をチェックできます。</p> <p><i>&lt;param&gt;</i> が <b>version</b> の場合 □Javaゲートウェイのバージョンが返されます。例: 2.0.</p> <p>将来使用するために予約するので、2つめのパラメータは空にする必要があります。</p> <p>このアイテムは、バージョン2.0.0からサポートされました。</p>
<b>zabbix[<i>process</i>,<i>&lt;type&gt;</i>,<i>&lt;mode&gt;</i>,<i>&lt;state&gt;</i>]</b>			

キー	
▲ 説明	コメント
<p>特定のZabbixのプロセス、または&lt;type&gt;と&lt;mode&gt;で指定されるプロセスのグループの、&lt;state&gt;の状態であった時間（パーセント値）。最後の瞬間にのみ計算されます。</p> <p>&lt;mode&gt;が動作していないZabbixのプロセス番号の場合、（例えば、5つのポーラーが動作していて□&lt;mode&gt;が6と指定されている場合）アイテムは、使用不可能な状態に戻ります。</p> <p>最小値と最大値は、単一のプロセスに対する使用率を参照するので、3ポーラーのグループでプロセス毎の使用率が2で、18と66だった場合、最小値は2が返り、最大値は66が返ります。</p> <p>各プロセスは、共有メモリ内で何をしているかを報告し、自己監視プロセスが秒毎にそのデータをサマライズします。ステータスの変化□busy/idle□は、変化があるたびに登録されます - busyになるプロセスはそうのように登録され、それがidleになるまでステータスの変更または更新を行いません。これによって、完全にハングしているプロセスであっても、100%ビジーとして正しく登録されます。</p> <p>現時点では「ビジー」は「スリープではない」ということを意味しますが、将来、ロック待ちやデータベースクエリーの実行といった、新たなステータスが追加導入されるかもしれません。</p> <p>Linux や多くの他のシステムでは、解決は1秒の100分の1です。</p>	<p>現時点では、下記のプロセスのタイプがサポートされています。</p> <p><b>alerter</b> - 通知を送信するプロセス</p> <p><b>configuration syncer</b> - 設定データのインメモリのキャッシュを管理するプロセス</p> <p><b>db watchdog</b> - DBが使用不可能な場合の警告メッセージのセnder</p> <p><b>discoverer</b> - デバイスのディスカバリを行うプロセス</p> <p><b>escalator</b> - アクションのエスカレーションを行うプロセス</p> <p><b>history syncer</b> - ヒストリDBの書き込みを行うプロセス</p> <p><b>housekeeper</b> - 古いヒストリデータを削除するプロセス</p> <p><b>http poller</b> - ウェブ監視のポーラー</p> <p><b>icmp pinger</b> - ICMP Pingチェックのポーラー</p> <p><b>ipmi poller</b> - IPMI チェックのポーラー</p> <p><b>java poller</b> - Javaチェックのポーラー</p> <p><b>node watcher</b> - ヒストリデータとノード間の設定変更を送信するプロセス</p> <p><b>poller</b> - バッシブチェックの一般的なポーラー</p> <p><b>proxy poller</b> - バッシブプロキシのポーラー</p> <p><b>self-monitoring</b> - 内部のサーバの統計収集するプロセス</p> <p><b>timer</b> - 時間に関係するトリガー関数の評価とメンテナンスのプロセス</p> <p><b>trapper</b> - アクティブチェック、トラップ、ノード間・プロキシ間通信のトラップ</p> <p><b>unreachable poller</b> - 到達不能なデバイスのポーラー</p> <p>注意: サーバログファイル内のこれらのプロセスタイプも参照することができます。</p> <p>有効なモード:</p> <p><b>avg</b> - 指定したタイプのすべてのプロセスの平均値（デフォルト）</p> <p><b>count</b> - 指定したプロセスタイプのフォーク数を返します。&lt;state&gt; 指定する必要はありません。</p> <p><b>max</b> - 最大値</p> <p><b>min</b> - 最小値</p> <p><b>&lt;process number&gt;</b> - プロセス番号（1〜プリフォークされたインスタンスの数）例えば、4トラップが動作している場合、値は1〜4の間。</p> <p>有効なステータス:</p> <p><b>busy</b> - プロセスはビジー状態、例えば要求を処理中（デフォルト）</p> <p><b>idle</b> - プロセスはアイドル状態で何もしていません。</p> <p>例:</p> <p>zabbix[process,poller,avg,busy] - 最後の瞬間に実行していたポーラーの処理の平均時間</p> <p>zabbix[process,"icmp pinger",max,busy] - ICMPピンガーのプロセスによって最後の瞬間に実行された処理の処理の最長時間</p> <p>zabbix[process,trapper,count] - その時点で動作しているトラッププロセスの数</p> <p>このアイテムは、バージョン1.8.5以降でサポートされています。</p>

キー				
▲	説明	コメント		
<b>zabbix[proxy,&lt;name&gt;,&lt;param&gt;]</b>				
□	プロキシ関連の情報へのアクセス	□	□	<p>&lt;name&gt; - プロキシ名</p> <p>サポートされているパラメータのリスト(&lt;param&gt;)□</p> <p>lastaccess - プロキシから受信した最後のハートビートメッセージのタイムスタンプ</p> <p>例: zabbix[proxy,"Germany",lastaccess]</p> <p>プロキシの状態を監視するためにトリガーのfuzzytime()関数を利用することができます。</p>
<b>zabbix[queue,&lt;from&gt;,&lt;to&gt;]</b>				
□	キュー内にある□<from>から<to>秒遅延するサーバ監視アイテムの数	□	□	<p>&lt;from&gt; - デフォルト: 6秒</p> <p>&lt;to&gt; - デフォルト: 無限</p> <p>時間の単位のサフィックス s,m,h,d,wをこれらのパラメータに使用できます。</p> <p>パラメータfromとtoは、バージョン1.8.3以降でサポートされています。</p>
<b>zabbix[rcache,&lt;cache&gt;,&lt;mode&gt;]</b>				
□	Zabbix設定キャッシュの稼働状況の統計	□	□	<p>キャッシュ: バッファ</p> <p>モード:</p> <p><b>total</b> - バッファのトータルサイズ</p> <p><b>free</b> - 空きバッファサイズ</p> <p><b>pfree</b> - バッファの空き容量 (パーセント値)</p> <p><b>used</b> - 使用バッファサイズ</p>
<b>zabbix[requiredperformance]</b>				
□	1秒あたりの監視項目で求められるZabbixサーバの要求パフォーマンス	□	□	<p>[レポート]-[Zabbixサーバの状態]の[1秒あたりの監視項目数(Zabbixサーバの要求パフォーマンス)]とおおよそ相関があります。</p> <p>このアイテムは、バージョン1.6.2以降でサポートされています。</p>
<b>zabbix[trends]</b>				
□	テーブル□TRENDS□に保存されている値の数	□	□	MySQL InnoDB□Oracle□またはPostgreSQLを使用している場合は、このキーを使用しないでください。
<b>zabbix[trends_uint]</b>				
□	テーブル□TRENDS_UINT□に保存されている値の数	□	□	MySQL InnoDB□Oracle□またはPostgreSQLを使用している場合は、このキーを使用しないでください。このアイテムは、バージョン1.8.3以降でサポートされています。
<b>zabbix[triggers]</b>				
□	Zabbixデータベースに保存されているトリガーの数	□	□	□
<b>zabbix[uptime]</b>				
□	Zabbixサーバプロセスのアップタイム (秒単位)	□	□	□
<b>zabbix[wcache,&lt;cache&gt;,&lt;mode&gt;]</b>				

キー			
▲	説明	コメント	
Cache	values	<b>Mode</b>	
		all	Total Zabbix サーバで処理される値の数 カウンタ
		float	カウンタ
		uint	カウンタ
		str	カウンタ
		log	カウンタ
		text	カウンタ
	not supported	取得不可のアイテムが処理された数 カウンタ このアイテムは、バージョン1.8.6以降でサポートされています。	
	history	pfree	ヒストリバッファ内の空き容量 (パーセント値) 数値が低い場合、データベースサイドにパフォーマンスの問題があります。
		total	
		used	
		free	
	trend	pfree	
total			
used			
free			
text	pfree		
	total		
	used		
	free		
<b>zabbix[wcache,&lt;cache&gt;,&lt;mode&gt;]</b>			
Cache	buffer	<b>Mode</b>	
		pfree	
		total	
		used	
		free	

本ページは2013/05/03時点の原文を基にしておりますので、内容は必ずしも最新のものと限りません。最新の情報は右上の「Translations of this page」から英語版を参照してください。

Last  
update:  
2017/01/13 07:22

jp:manual:config:items:itemtypes:internal <https://www.zabbix.com/documentation/2.0/jp/manual/config/items/itemtypes/internal>

---

From:  
<https://www.zabbix.com/documentation/2.0/> - **Zabbix Documentation 2.0**

Permanent link:  
<https://www.zabbix.com/documentation/2.0/jp/manual/config/items/itemtypes/internal>

Last update: **2017/01/13 07:22**

